

疾患名

血栓性血小板減少性紫斑病

病気について

血液の凝固因子の一つにvon-Willebrand因子があり、ADMTS13はその重合体を切断する酵素です。ADMTS13に対する自己抗体によってADMTS13の活性が低下し、微小血管内で血栓が生じることで消費された血小板減少と阻血により様々な臓器障害が起こる疾患です。自覚症状に関しては、全身倦怠感、発熱、出血傾向、頭痛や意識障害などです。

治療について

副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬、抗体除去のための血漿交換療法を行います。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス療法の種類：血漿交換

回数：治療開始後1月を上限として、血小板数が15万/ μ L以上となった2日後まで1日1回を連日継続します。